

活動状況報告（2月）

学生留学コース 5期生 藤原 香夏

留学開始から2カ月が経過しました。2月下旬のエドモントンは、 -29° まで気温が下がった週があり、寒波警報が約1週間毎日発令されていました。冷たい空気が皮膚と肺に刺さるような感覚で、寒さを超越し痛みを感じました。そんな2月の活動報告は、エドモントン市内で開催された「Silver Skate Festival」の視察内容を中心に報告致します。

「Silver Skate Festival」とは、冬の体験を創造し、冬の大草原の生活を祝うことを使命とビジョンに掲げるエドモントンで最も長く続く冬のお祭りで、30年以上の歴史があり、市内の大きな公園で10日間開催されています。名前の通り、小さなスケートイベントとして始まったお祭りが、文化、教育、スポーツ、レクリエーションを組み合わせたお祭りへと発展したそうです。

私は、留学前にエドモントンについて調べていた際にこのお祭りを知り、留学中にぜひ視察に行きたいと考えていました。北海道にも「さっぽろ雪まつり」がありますが、エドモントンではどのような冬のお祭りが開催され、冬の暗く厳しい寒さの中どのような体験を提供することで市民の参加意欲が掻き立てられるのか等興味がありました。このお祭りは、市民の方が製作する雪像などもありましたが、見て楽しむというよりも参加して楽しむお祭りという印象を受けました。

お祭りの最大の特徴であるスケートは、公園内にサッカーコート約7面分にあたる5ヘクタールの湖の凍結が利用されスケートリンクとなり、お祭り期間中はスケート靴が無料貸し出しされるため、多くの方がスケートを楽しんでいました。お祭りのスポーツの分野ではスケートだけにとどまらず、冬のトライアスロンのレースやファットバイクの体験、ファミリーゾーン、レクリエーションゾーン、アウトドアアドベンチャーと子どもから大人まで多くの方が楽しむことができる体験が提供されていました。レクリエーションゾーンでは、ボールホッケーやジャム缶カーリング等のカナダらしいスポーツを子どもたちが楽しく体験していました。中でも私が印象的だったのは、冬のトライアスロンです。このレースはラン・スケート・スキーの3つの種目で構成されており、大人が一人で参加して持久力を試すことはもちろんですが、家族や友人と参加しチームとしてリレー形式でトライアスロンに参加できるため、5歳くらいのお子さんとお父さんが手をつないでレースに参加している姿や、ベビーカーを押しながらスケートで走っているお母さんの姿がありました。ベビーカーを押しながらスケートをする方の姿はかなり衝撃的で、小さな子供がいることをレースに参加しない理由にせず、子どもと一緒に参加する選択をするお母さんに脱帽しました。親子で楽しむことができるレース内容には非常に惹かれるものがありました。冬季に屋外で様々な身体活動を行う場が提供され、幼少期から参加することで冬や雪への抵抗感やマイナスのイメージを持つことは少なく、1年を通じて活動的な子どもが増えていくことに繋がるのではないかと感じました。

私が在籍している北海道教育大学では、「遊び」をテーマに地域の方々が家族で参加できるプロジェクトがあるので帰国後には留学中に視察した様々な「スポーツ」、「遊ぶ」を参考に本学のプロジェクトにも参加していきたいと考えています。

また、1月から受講していた1つ目の語学の授業が2月末で修了しました。クラスメイトはパナマ、エチオピア、クウェートと多国籍で互いに文化や言語が全く違いましたが、自国についてプレゼンを行ったり、ディスカッションで自国の状況を例に挙げて話すなどし、様々な国の特徴や現状を知り、深めることができました。3月からまた新たなクラスで授業が始まるので、再度気を引き締めて学習していきます。このような環境で日々学べているのは皆さまのご支援、サポートのおかげです。ありがとうございます。引き続きご支援、応援の程よろしくお願い致します。

